

HEALTH CARE

The Newsletter of the Japan Health Care Dental Association

vol.15 no.3

(年間6回刊行・通巻086号)



日本ヘルスケア歯科学会

事務局 東京都文京区関口 1-45-15-104

☎ 03-5227-3716

Fax. 03-3260-4906

URL <http://www.healthcare.gr.jp>

E-mail : center@healthcare.gr.jp

編集代表 渡辺 勝

編集制作 有限会社 秋 編集事務所

学会入会金 歯科医師 5,000 円

その他 3,000 円

学会年会費 歯科医師 12,000 円

その他 6,000 円

郵便振替口座 00190-7-407895

名義 一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会

銀行振込口座 三菱東京 UFJ 江戸川橋支店

普 0051809

名義 一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会

重要なお案内

●以下の同封物をご確認ください。

1.ヘルスケアミーティング2012案内
ヘルスケアミーティング2012の参加受付開始します。ぜひご参加ください。

2.スタッフの業務範囲に関するアンケート

ヘルスケアミーティング2012にむけて、スタッフの業務範囲に関するアンケートにご協力ください。

3.HyG-Times no.17

催しものご案内

① 歯科衛生士育成基礎コース

日時：2012年7月15・16日

会場：太陽歯科衛生士専門学校

② 第10回認証ミーティング

日時：2012年7月22日

会場：東京八重洲ホール

③ ヘルスケアミーティング2012

日時：2012年10月20・21日

会場：秋葉原コンベンションホール

④ 歯科衛生士育成検定コース

日時：2012年11月3・4日

会場：太陽歯科衛生士専門学校

④ ワンデーセミナー東京

日時：2012年12月2日

会場：日本歯科大学九段ホール

認証診療所の全国規模のネットワークをつくろう p.1	会務報告・会務案内 p.10
第10回認証ミーティング p.2	報告・ボールプールが届きました p.11
スタッフの業務範囲アンケートについて p.3	コア会議報告 p.11, 17
調査1 初診患者実態調査協力者募集 p.3	書評 p.12, p.16
ウイステリア Pro/アポイント管理職活用術 p.4	健康ってなんだ? p.14
告知板 p.6, 14	患者様の苦痛を取り除け! p.15
東京 HCG メインテナンス率報告 5 p.7	ヘルスケアフォーラム p.18
コラム 知っておきたい Perio の基礎 p.9	ワンデーセミナー東京 案内 p.21
歯科衛生士育成検定コース募集案内 p.9	ヘルスケアミーティング2012 p.22-24

認証診療所の全国規模のネットワークをつくろう

森谷良行 (コアメンバー・坂戸市開業)

日本ヘルスケア歯科学会には、認証診療所という資格があります。この資格は、『健康を守り育てる歯科医療』を『それを望む患者さん全てに対して』、『実践している診療所』であるということを学会が公認するものです。個人を認証するものではなく、診療所単位の認証になります。この点が認定医や専門医などの資格と大きく異なるところですが、これは『健康を守り育てる歯科医療』はチームですもの、だからです。

『健康を守り育てる』

健康という概念はさまざまですが、健康でいることでどんな恩恵を私たちは受けているのでしょうか？

本を読むことができる

仕事をするすることができる

家事をするすることができる

勉強をするすることができる

ほぼすべてのことがいつも通りできるはずですが、病気になって健康であったことのすばらしさを実感したという話をしばしば聞きます。では、口腔内の健康はどれだけ全身に影響しているのでしょうか？ 私の考えになりますが、命に関わると思っています。ただ、歯科治療をしていて命の瀬戸際に関わるような場面は多くないと思います。しかし、歯科治療中の患者さんから『食べづらい、眠りが浅い』という言葉を目にしたことがあると思います。断食をし続ければ、睡眠をとらないでいたら… 確実に命に関わります。直ちに命をおとさないというレベルなだけで、確実に害をなしているのです。ボディーブローのようにジワジワと命を削っています。

そのことを知りながら、従来通りに歯科医療をし続けることが私にはできません。来ていただいている方々の健康を守るために日々、患者さんと向きあっています。

2012年6月現在で40診療所が、認証診療所として登録されています(詳しくは学会ホームページを参照)。皆さんの診療所に通っている方が、仕事の都合などの理由で転居したりすることがあると思います。そのときにその方とご縁はそこまででしょうか。場所は異なっても『健康を守り育てることができる診療所』を紹介させていただくことはできる

と思います。直接、関わることはできなくても、その方の健康にかかわり続けることこそが『健康を守り育てる診療所』である私の役目だと思っています。

現状の数では、足りません。個々の診療所に対応するだけでなく、全国規模のネットワークを駆使することで健康を

守ることが可能なのではないのでしょうか。

診療所ネットワークを介して、口腔内の健康を守ることによって『食事を通して楽しさや幸せ、その方の人生を豊かにすること』ができると確信しています。

そのためにも認証診療所が増えることを切に願います。



第10回 認証ミーティング

2012年7月22日(日)

東京八重洲ホール ホール B2 (東京駅八重洲口) 東京都中央区日本橋 3-4-13 <http://www.yaesuhall.co.jp/>

聴講無料

【予定】 12:20～14:50 第10回 認証ミーティング

認証プレゼンテーション

1. 正明会 岩井歯科 (代表・岩井正彦・江南市)
2. 医療法人 ふじわら歯科医院 (代表・藤原夏樹・広島市)
3. 医療法人社団 たるみ歯科クリニック (代表・樽味 寿・宝塚市)
4. 武内歯科医院 (代表・武内義晴・日野市)*
5. あめみや歯科医院 (代表・雨宮博志・秦野市)
6. 医療法人社団 ワンアンドオンリー 麻生歯科クリニック (代表・麻生幸男・静岡市)

* 武内歯科医院は院長病氣療養のため次回以降へ

15:00～17:00 招待特別講演 天野敦雄教授 (大阪大学大学院)

大阪大学大学院歯学研究科教授 同大学歯学研究科 口腔科学フロンティアセンター長

【参考】2009年と2010年の『Periodontology 2000』は天野教授による歯周病の病因論にかかわる5つの総説を掲載しています。

17:00～18:30 懇親会

招待特別講演 抄録 ————— 天野敦雄 大阪大学大学院教授

2001年、人類史を俯瞰するギネスブックに『全世界で最も蔓延している病気は歯周病である。地球上を見渡してもこの病気に冒されていない人間は数えるほどしかない』と記載された。未だ歯周病の全体像は判っていない。病因論が確立していないのだから、歯周治療も百家争鳴となって然るべしである。しかし、21世紀の科学はようやく歯周病菌と歯周組織の戦いの様子を明らかにし始めてくれた。

歯周病菌は我々が推測していたよりも遥かに若い時期に口腔内に定着する。歯周局所環境の変化をきっかけに歯肉溝内面に潰瘍が形成され、毛細血管から血液が歯肉縁下プラークに供給された時、20年にもおよぶ潜伏期間を経て、歯周病菌は著しく増殖し、プラークの病原性は一気に高まる。これが歯周炎発症の瞬間である。歯周ポケット内に血液が供給され続ける限り、歯周炎は持続する。一方、歯周治療により血液の供給を断れば菌量は激減し、ポケット細菌叢の病原性は発症前のものに復する。しかし、歯周治療が奏功しても、歯周病菌は口腔内に生息し続けるため、歯周病に完治はない。

細菌対宿主のせめぎ合いの観点から歯周病の本態を解説させていただく。歯周治療を再考していただくきっかけとなれば幸いである。

**USTREAM
LIVE 配信!!**

<http://www.ustream.tv/channel/ninsho10>



7月22日当日は、
ここで視聴できます!

ヘルスケアミーティング 2012 にむけて、 スタッフの業務範囲に関するアンケート

診療室において歯科衛生士に指示することが可能な医療行為に関してグレーゾーンがありますが、リスク管理とメンテナンスケアを診療の基本と位置づける日本ヘルスケア歯科学会としては、その目的を障害しないように法解釈を整理したいと考えております。そのための基礎資料として、あなたの医院で歯科衛生士の法律上の業務範囲をどのように考えているか別紙のアンケート用紙に記号でお答えください。

なお、このアンケートはデリケートな内容を含むため、どの医院の回答かわからないように、集計を行います。データの分析のため、回答者の属性、診療所の区分についてご回答ください。医院名は絶対に記入しないでください。

法律上、歯科衛生士の

業務範囲であると認識しており、自分の医院では当たり前に行っている・・・ 範囲内/y

業務範囲であると認識しているが、自分の医院ではさせていない・・・・・・ 範囲内/n

業務範囲ではないと認識しているが、自分の医院ではさせている・・・・・・ 範囲外/Y

業務範囲ではないと認識しており、自分の医院では絶対にさせない・・・・・・ 範囲外/N

参考までに歯科衛生士以外のスタッフ（歯科助手）に関してもお答えください。

同封の別紙調査用紙にご記入のうえ、事務局まで FAX (03-3260-4906) にてご返送ください。

学会ホームページ (<http://www.healthcare.gr.jp>) から回答できます。

返送期日：2012年7月20日（金）

Do プロジェクト協力者募集 2011年初診患者実態調査

調査1

初診患者実態調査（2011年初診患者についての実態調査）

- 調査の目的： 1) 日本ヘルスケア歯科学会の会員診療所の協力により調査を行ない、日本における歯科疾患の状況を把握することを助ける資料とし、今後の歯科医療環境の改善に役立てる。
2) 歯科医院に来院する初診患者の状況を把握して、診療室における診療システムの改善に役立てる。

- 調査参加資格： 1) 日本ヘルスケア歯科学会会員の診療所
2) 初診患者について以下の資料があること
5歳から20歳：DMFT

20歳以上：DMFT、残存歯数、歯周病進行度、喫煙経験。

但し、初診患者全員について、すべての項目のデータが揃ってなくてもかまいません。
例えば1日しか来院がなく、残存歯数のデータしかない場合も可。

- 3) 資料をデジタルデータで提出（マニュアル有り）。

● 調査対象患者：2011年1月1日から2011年12月31日に来院した初診（診療室に初めて来院）患者全員

● 資料提出期限：2012年9月30日

● 参加申込：2012年8月31日までに事務局

● その他：調査医院名は事務局で匿名化して集計します。結果はニューズレターあるいは会誌にて公表します。

ウイステリアPro/アポイント管理職



No.8 岡田永三 (八尾市開業・岡田歯科クリニック)

医院紹介

大阪府八尾市で開業しています。岡田永三です。今年の8月で16年になります。歯科医師1名、歯科衛生士1名、受付1名、ユニット3台でスタートし現在、歯科医師2名、歯科衛生士4名、歯科助手3名、受付2名、ユニット5台で診療しています。ウイステリアの導入と活用術の紹介を依頼され、初心者の私にでもできる方法をご紹介させていただきます。

泉大津市の西村吉行さんに予防の大切さを教えられ、平成13年に山形県の酒田市で基礎コースを受講し、健康を守り育てる診療所を目指してまいりました。そこで、患者さんの情報を管理し、診療室の全体像やリスク管理の成果を把握するために当時の日本ヘルスケア歯科研究会でウイステリア Photo Ver2.2を購入し、ノートパソコン1台で入力を始めました。インストールするところから始まり、患者さんの情報入力や口腔内写真の入力に至るまですべてが煩雑でパソコンの苦手な私は早くも、断念を余儀なくさせられました。それから何年か過ぎ、患者さんの人数も順調に増え、それに伴い情報も増えてまいりましたので、このままの個人単位の診療で良いのかと不安になり始めました。スタッフの入れ替わりの周期よりも、定期診査の患者さんがより長く通院してくれる現状に直面いたしました。そこで担当歯科衛生士がいつ交代しても患者さんに正しい統一されたデータを提示できるように管理ソフトの一つにウイステリアを2年前に再考しました。

前回の導入失敗を反省し、今回はある程度の設備投資すること、確実なサポートを受けることに重点を置きました。幸いにも藤本省三さんからサポート業者の森一弘さん(アクセス)を紹介され、早速連絡して九州から来ていただくことにしました。パソコンに不慣れな私の意見を大変よく聞き入れていただきました。今も不自由なく使っていて本当に感謝しています。

ウイステリアのデータ入力だけで済むように、レセコン(ミック)と連動していただき初診登録の情報がそのまま移行できました。エックス線写真はヨシダのVISTA SCANでデジタル化しており、1台のパソコンで共有しています。トラブルは当然ありますが、何度も言いますが私は何もできないのでサポートの森さんにお任せです。レセコンやデジタル

エックス線写真の不具合は常に電話でサポートを受けていますがこれは時間も手もかかります。森さんの場合はパソコンの遠隔操作でトラブルを解消してくれますので、最初のパスワードを電話で伝えると後はパソコンを操作して問題を解消してくれます。簡単に配線図(右ページ)を書きました。院内LANで使っているパソコンをインターネットに繋ぐのが心配でしたが、それもすべて解消していただきました。

1. 初診の登録は受付のレセコンで済ませると、診療室では初診日の今日のボタンをクリックすればおしまいです。



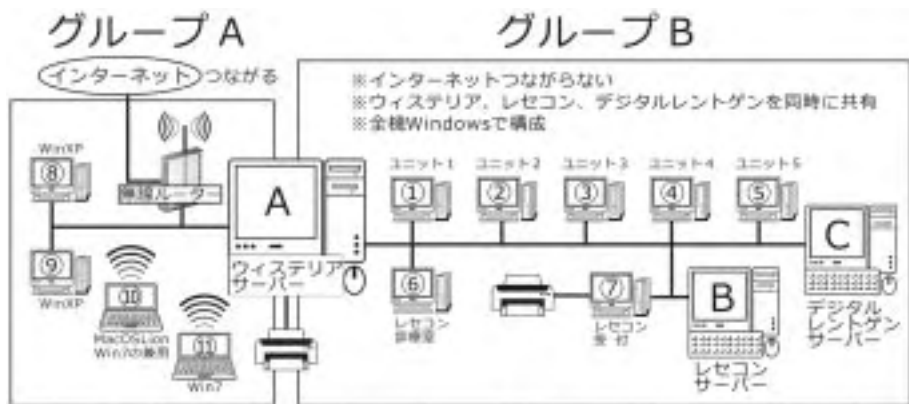
基本画面

2. 次に大人は歯周病画面に行き、初診時残存歯数と初診時DMFTを入力します。それからX-ray10枚と口腔内写真を撮ります。口腔内写真はそのまま印刷して渡しています。



歯周病画面

LAN 配線図

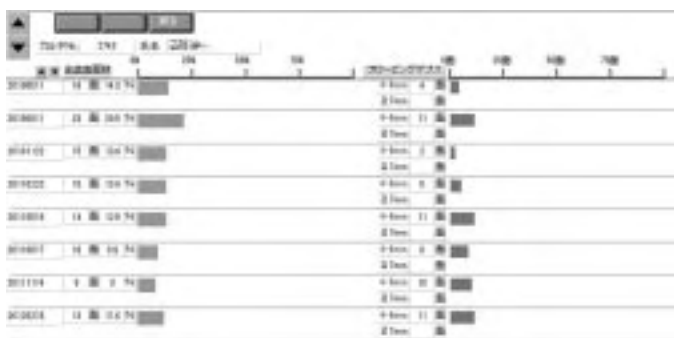


※ウィステリアサーバーは、グループ B への所属のみで本来の機能を果たすが、遠隔操作サポート導入のため、インターネット接続が可能なグループ A にも同時に所属させている。それ以外のグループ B 機器はインターネットから隔離し、セキュリティ向上を考慮した。



9 枚写真表示

3. 精密検査の結果や再評価はグラフで説明しています。歯周病の状態をわかりやすく説明できて重宝しています。



PerioAssistant グラフ画面

4. 過去 3 年間の全来院患者数とメンテナンス患者数を出しました。

2011 年は全患者の入力ができ、その結果年間を通すと 83.7 % の人が 1 回以上のメンテナンスに来られたことがわかりました。スタッフの努力のおかげです。

検索年 2012 年 再計算

年	メンテナンス患者数	来院患者数	メンテナンス患者率
2011 年	1153 人	1379 人	83.7 %
2010 年	563 人	791 人	71.2 %
2009 年	人	18 人	0 %

集計画面→メンテナンス来院状況

5. 2010 年に来られた初診患者数が 2011 年にどのくらいメンテナンスに移行できているのかわかりました。このまま迷いなく続けていくことに自信が湧いてきました。

2010 年初診患者のメンテナンス来院状況

検索年 2012 年 再計算

年	メンテナンス患者数	初診患者数	メンテナンス患者率
2011 年	298 人	350 人	85.1 %
2010 年	155 人	350 人	44.3 %
2009 年	人	350 人	0 %

集計画面→メンテナンス来院状況→初診患者数とメンテナンス患者数

6. 年齢分布でも 30 代、40 代の層が多く来院されているのがわかり、6～12 歳代も意外と多いのに気づきました。

2010 年1月1日から 2010 年12月31日まで 実行

(注意: 最終に表示される人数は、今まで入力されている全ての患者の集計です)

年齢	人数	割合
0～5歳	16	4.6%
6～12歳	52	14.9%
13～19歳	28	8.0%
20～29歳	22	6.3%
30～39歳	60	17.1%
40～49歳	63	18.0%
50～59歳	42	12.0%
60～69歳	42	12.0%
70～79歳	22	6.3%
80歳～	3	0.9%
合計	350	

集計画面→初診時年齢分布

感想

はじめはニュースレターのウイステリア Pro/アポイント管理職活用術はいつも素通りの私でしたが、少しずつデータを入力していくうちによく見るようになりました。3年弱のデータ入力で今回はじめて統計をとってみました。医院の分析に大変役に立ちました。これからは抜歯の入力やう蝕のリスク検査も始めたいと思います。

ウイステリアを買って最初の私のように挫折した方は多数おられると思いますが、レセコンやデジタルエックス線と同じように費用をかけてサポートを受ければ誰でも簡単に続けられます。ハイレベルなことはまだできませんが、データの蓄積はこれからも続けていくつもりです。アポイント管理職も導入し歯科衛生士が直接アポイントを取れるようにする予定です。データ入力を今より簡単にするため iPad の利用も検討中です。

今回の私の初心者でもできる活用法の紹介でウイステリア導入のハードルを少しでも下げられれば幸いです。最後になりますが、このような機会を与えていただきまして、まことにありがとうございました。



【サポート連絡先】 アクセス 代表 森 一弘
 〒 842-0033 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町豆田 2103-13
 TEL. 0952-51-1776 ・ FAX. 0952-51-1767 携帯 090-1920-7894
 URL <http://www.access-pcdoc.jp> E-mail kazu@access-pcdoc.com

告知板

○未来創造 (<http://www.mirai-sozo.com/>)

2012年7月8日(日) 13:00～17:00
 場所: 鶴見大学会館
 参加費: 歯科医師 4,000円 他 2,000円
 「あなたの未来はこんなに明るい」
 ～歯科医療に従事する全ての方へ～
 第1講座 13:30～14:50
 「これからの歯科医院の在り方」
 ～口福は健口から～
 講師: ゆいとびあ歯科医院 藤本 淳
 第2部 15:00～17:00
 「パネルダイアログ」
 歯科業界の若きリーダーたちによる公開
 ダイアログ(対話)
 雑談でもなく議論でもない「対話」は舞
 台と会場を一体化させます。
 「対話」を通じて生まれるあなたとあなた
 の歯科医院の未来を感じてください。
 パネルダイアログ登壇者
 藤本 淳(盛岡市 ゆいとびあ歯科医院)

山村洋志明(岡崎市 すまいる歯科)
 佐藤信二(横浜市 佐藤歯科医院)
 渡辺 勝(春日部市 わたなべ歯科)
 近藤藤近(会計事務所)
 他、追加予定あり(順不同)
 ファシリテーター: 平岩裕子(接遇講師、
 やまとなでしこ塾主催 株式会社コンフ
 オルトパートナー講師)
 申込み先:
ssl.form-mailer.jp/fms/2b27db50199851

○感動の条件

(<http://kokucheese.com/event/index/40866/>)
 2012年8月5日(日) 13:00～16:30
 場所: ハンドレッドスクエア倶楽部
 秋葉原スクエアビル 7F(旧サンライン
 100ビル)
 (東京都台東区浅草橋 5-3-2)
 参加費:
 一般前売 3,500円 当日 5,000円
 学生前売 2,500円 当日 4,000円
 懇親会 別途 4,000円(先着 40名)
 定員: 150名

感動を生み出す「ホスピタリティー」
 そして今、これからの医療のあり方と
 は?!
 『感動の条件』は、あなたが「感動する人」
 になることではなく「感動を生み出す人」
 になってもらうことを目的としています。
 (永松茂久)
 第一部
 基調講演 永松茂久
 第二部
 講演 陰山康成 医師・歯科医師のダブル
 ライセンスを持つドクター
 『和魂が万病を癒す』
 講演 長山和枝 歯科衛生士
 『実力の差は意識の差』
 和太鼓演奏 ソロ和太鼓演奏者・壱太郎
 申込み・詳細:
<http://kokucheese.com/event/index/40866/>

☆情報交流の場としてご利用ください。掲
 載希望の方はニュースレター担当 渡辺
 まで
 ヘルスケア歯科診療に役立つものであれ
 ばどんな規模でも OK です。

(講師敬称略)

2011年度 東京ヘルスケアグループ スタッフミーティング 報告 5

うつぎざき歯科医院のメンテナンス率

榎崎慶二 (うつぎざき歯科医院)

□ 医院概要 (2011年のデータ)

1993年	茨城県水戸市で開業		
1日の患者数	45人		
平均レセプト枚数	約600枚		
純初診患者数	310人		
診療ユニット	5台		
歯科医師	1名		
常勤歯科衛生士	3名	非常勤歯科衛生士	2名
受付	1名	非常勤受付	1名
歯科助手	2名	学生アルバイト	1名

□ メンテナンスの内容

時間配分 (成人 60分・残存歯の少ない方は 30分)
 検査・問診：10分
 ブラッシング：5分
 デブライメント・スケーリング：15分
 PMTC, フッ素塗布：15分
 計 45分
 残り時間：院長チェック, 担当 DH と患者のアポイント
 時間配分 (小児 30分・永久歯列完成後及びリスク部位の多い患者は 60分)
 検査・問診：5分
 ブラッシング：5分
 スケーリング・PMTC・フッ素塗布：15分
 計 25分
 残り時間：院長チェック, 担当 DH と患者のアポイント
 間隔：基本は 4ヵ月 (年 3回) 最長 6ヵ月
 患者さんの状態, 意見を踏まえて増減

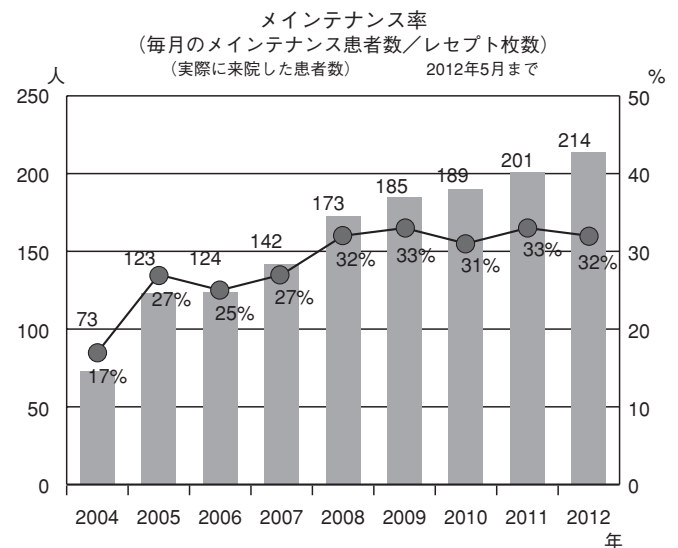
□ メンテナンスの予約の取り方

デントネットシステムを使用し, 原則的にはメンテナンス終了時にチェアサイドで担当歯科衛生士が約束するかたちでアポイント。予約日 1~2週間前にはがきでお知らせ。メール希望の方は, 2日前にお知らせのメール配信。無断キャンセルのときには, はがきを出し来院意思を確認。患者の希望により, アポイントとらず, 電話連絡待ちの場合もある。

□ メンテナンス率

当医院でメンテナンス率を把握するために数年前からこの数値を見ています。

毎月のレセプト枚数に対する実際に来院したメンテナンス患者の割合です。最近では, 自費のみの患者がかなり増えてきたため, 「レセプト枚数+自費のみの患者数=毎月のカルテ数」として評価した方がよいと考えています。棒グラフは実際に来院したメンテナンス患者数の月平均です。折れ線グラフがメンテナンス率です。



□ まとめ

2004年から統計を取りだしました。日本ヘルスケア歯科学会でも最低目標にしているメンテナンス率 30% を 2008年に超えることができました。しかし, それ以降メンテナンス率は伸びていません。毎月のメンテナンス患者数は増えてはいますが, 伸び率が少ないということだと思います。メンテナンスが患者さんの健康に寄与できることは明らかであり, 真のヘルスケア診療所となるためには, より多くの方にメンテナンス受け入れてもらう必要があります。そのために, 医院の総合力を上げる必要があります。医院一丸となって努力していきたいと思っています。



川嶋歯科医院のメンテナンス率

川嶋 剛 (川嶋歯科医院)

□ 医院概要

2001年6月	東京都国立市にて開業
診療ユニット	6台
常勤歯科医師	1名
非常勤歯科医師	4名 (インプラント専門医1名, 矯正専門医2名)
常勤歯科衛生士	2名
非常勤歯科衛生士	1名
常勤助手	1名
診療時間	9:00 ~ 13:00 14:30 ~ 18:00 (土曜日は17:00迄)
休診日	水曜, 日曜, 祝日

□ メインテナンスの内容

時間	大人 30分~60分 小児 30分
間隔	1ヵ月~6ヵ月リスクによって幅広く増減します。
基本内容	面接, 問診, 検査, TBI, DPR, SRP, PMTC など
	小児は年1回デンタルエックス線4枚, 大人は1年半から2年でデンタルエックス線14枚及びパノラマ撮影 (こちらリスクによって期間はかなり増減します)。

□ メインテナンス予約について

1. メインテナンス終了時に次回の予約をとる
2. 時期がきたらこちらから連絡 (本人に宛名記入してもらったハガキ, E-mail, 電話のうちいずれか)
3. 患者さんからの連絡待ち

患者さんのご希望により1~3のいずれかにしています。原則は1にしており, ほとんどの方が1または2です (1>2)。

1の方は, 予約1週間前になったら, 電話にてアポイントの確認をこちらから行っております。

当日, 連絡なしで来院されない患者さんには, 状況に応じてスタッフが電話します。

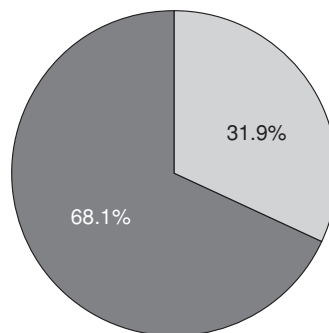
□ メインテナンス率

メンテナンス率はその年に来院された患者数に対するメンテナンス目的で来院された患者数の割合

その年に来院された新患のうち, 引き続きメンテナンス目的で1回来院した患者数の割合で出しました。

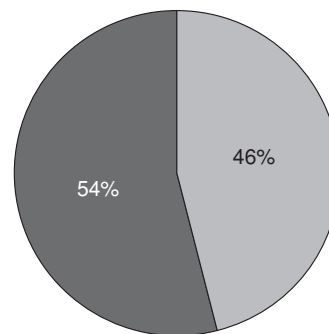
メンテナンス率は, 医院の総合力の結果だと思います。今後は, 治療内容の向上 (人間性の向上も), スタッフのスキルアップなど問題は山積していますが, その1つひとつに真摯に取り組んでゆきたいと思います。

平成22年来院患者中のメンテナンス率

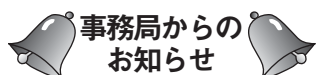


$$\frac{\text{H22年にメンテナンス目的で来院された患者数}}{\text{H22年来院された患者数}} = \text{メンテナンス率}$$

平成22年初診→メンテナンス



$$\frac{\text{H22年の新患中でメンテナンス目的で1回以上来院された患者数}}{\text{H22年来院された新患数}} = \text{メンテナンス移行率}$$



オピニオンメンバー会議

2012年7月22日 午前10:00~11:40

東京八重洲ホール 会議室 (認証ミーティングと同会場)

知っておきたい Perio の基礎 (9)

藤本 淳 (盛岡市開業)

みなさんこんにちは。5月18日・19日に北の大地札幌にて第55回春季日本歯周病学会学術大会が開催されました。テーマは「参加者全員で考える歯周病治療—その原点と未来—」。参加された方も多くいらっしゃると思います。会場にはあふれんばかりの参加者でしたね。立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

ゆいとぴあ歯科医院からは6名の歯科衛生士そして自分が参加しました。衛生士セッションは2日目にあり、歯科衛生士教育講演は満席、症例ポスター発表の会場は活気に満ちあふれ、話すのも歩くのもやっとの状況でした。

認定衛生士制度の効果もあり、衛生士セッションで生き生きと発表されている歯科衛生士の姿、ポスターセッションで活発に質疑応答する姿、素敵でした。歯科衛生士が輝けるように医院でこれからも支援していく想いがさらに熱くなりました。

佐藤昌美さんによる歯科衛生士教育講演では、「“ブランクコントロール”～歯周治療の原点」と題し、20年の臨床経験から患者様へのアプローチについて症例を通じて示してくださり、とても分かりやすく面白いものでした。さらに歯科衛生士としての成長がいかにやりがいになるか伝わってくる素敵な講演でした。

また全員参加型・臨床シンポジウム「参加者全員で考える

歯周治療—みんなで投票—」では、症例に対して治療法をどのように考えていくか、選択肢をパネラーである4名の先生方がアプローチの違う治療法をプレゼンし、みんなが投票して、さらに議論を進める形式の新しいかたちのシンポジウムでした。

シンポジウムでは、例えば限局した垂直性骨欠損症例に対して、GTR、エムドゲイン、自家骨移植などの治療法を、どのように考え、どのように判断するか、考え方を改めて聞くことができ、同時に類似症例の治療例を提示していただき、とても良い勉強になりました。歯科衛生士にとってもドクターがどのように治療方針を設定するか、同じ骨欠損に対しても様々なアプローチ方法があることなど、良い気づきが得られ、治療法理解の一助になったと思います。

ポスターセッションは活気に満ちあふれていました。認定医・専門医の臨床ポスターが54例、歯科衛生士症例ポスターが23例出され、発表者と直接質疑応答できるチャンスに多くの参加者が活発な意見交換をしていました。そのボリュームは凄いもので会話するのもやっとな程でした。ゆいとぴあ歯科医院のメンバーも普段の疑問を解決すべく質問していました。

今回、医院メンバーと参加した歯周病学会。輝く歯科衛生士の姿を間近に感じることができ、将来の歯周病学会認定歯科衛生士の夢を大きく膨らませるとともに、たくさんの気づき、学びが得られたようです。

秋期歯周病学会は9月23日(日)つくば国際会議場で行なわれます。ぜひ足を運んでみてください。



第7期生(2012年度)募集中(検定コース)

2012年度の歯科衛生士育成プログラム基礎コースが7月よりスタートします。

今年度の検定コースは11月となっています。まだお申し込み可能ですので、この機会にぜひ検定コースを受講ください。

受講ご希望の方は、事務局までファックスにてお申し込みください。会員ホームページ、ケータイ・スマートフォンからも申し込み可能です。

検定コース(東京)

日程： 2012年11月3日(土・祝)、4日(日)

会場： 太陽歯科衛生士専門学校(東京都・日暮里駅前)

受講費： 30,000円/歯科衛生士1名 院長オブザーバー参加10,000円

募集定員： 20名(オブザーバーは定員外で参加)



会務報告・会務案内

決算報告につき、2月23日に鈴木正臣監事による監査を受け、証憑のランダムな突合などにより、公正妥当に処理されていることが認められました。しかしながら、会費収入の前年比8.3%の減少、管理費（事業の活発化に伴う）の増加により正味財産の2,848千円の減少となっています。ただし、本学会は、日本ヘルスケア歯科研究会から、財産のすべてを引き継ぎましたが、法人化初年度であるため、任意団体と一部会計基準が異なり、前年との比較困難な部分があります。

公益目的事業会計

2011年1月1日から2011年12月31日まで

〈事業活動収入〉

(単位：円)

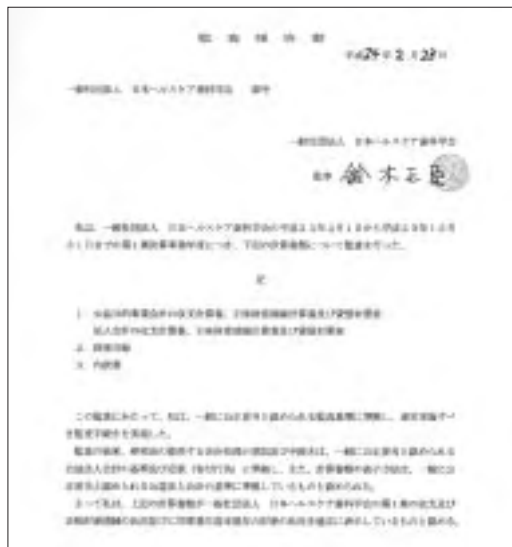
科目	2011年度	2010年度
【入会金・会費】	[12,650,000]	[13,805,000]
入会金収入	(198,000)	(216,000)
歯科医師	180,000	195,000
歯科衛生士他	18,000	21,000
会費収入	[12,452,000]	[13,589,000]
歯科医師	(11,190,000)	(12,040,000)
前々年度	0	12,000
前年度	0	74,000
当年度	3,648,000	3,686,000
次年度	7,542,000	8,244,000
次々年度		24,000
歯科衛生士他	(372,000)	(504,000)
前年度	6,000	18,000
当年度	132,000	180,000
次年度	234,000	306,000
法人会員	(850,000)	(1,000,000)
購読会員	(40,000)	(45,000)
【事業収入】	[11,688,500]	[10,521,550]
ヘルスケアミーティング	(1,691,400)	(1,310,000)
ワンデーセミナー	(258,000)	(972,000)
スタッフセミナー	(423,000)	(775,000)
DH育成セミナー	(4,935,000)	(3,885,000)
基礎コース	4,260,000	2,965,000
検定コース	675,000	920,000
その他セミナー	(136,000)	(204,600)
企画商品販売	[4,245,100]	[3,374,950]
ウイステリア	377,000	391,800
アポイント	178,000	140,000
PP版	305,000	618,000
健康手帳	1,681,000	668,250
禁煙支援	160,800	222,300
POEM	2,800	34,800
小冊子	133,000	308,000
ポスター	39,500	37,000
リーフレット	52,000	44,000
説明補助シート	107,100	88,200
歯磨剤ガイド	107,700	170,000
ライトハンドルカバー	374,000	395,000
う蝕/エックス線診査表	27,000	227,600
説明用ビデオ	0	30,000
その他収入	700,200	0
【受取寄付金(東日本震災関連)】	[736,813]	[0]
【雑収益】	[1,381,052]	[38,563]
立替・他収入	119,887	0
受取利息	360	0
棚卸資産受贈益	1,227,181	0
固定資産受贈益	33,624	0
収入合計	26,456,365	24,365,113

〈事業活動支出〉

(単位：円)

科目	2011年度	2010年度
【事業費】	[20,736,415]	[20,095,871]
セミナー、講演会経費	(7,539,235)	(9,090,671)
会場費	2,530,626	0
旅費交通費	837,705	39,740
諸謝金(講師謝金)	3,957,822	0
広告宣伝費	213,082	0
ヘルスケアミーティング	0	1,626,152
ワンデーセミナー	0	1,129,195
スタッフセミナー	0	947,363
DH育成セミナー	0	0
基礎コース	0	2,751,255
検定コース	0	1,934,388
その他セミナー	0	662,578
他事業費	(13,197,180)	(11,005,200)
福利厚生費	62,400	0
会議費	1,094,333	863,163
通信運搬費	1,130,720	883,458
事務設備費	67,440	2,800
事務用品費	138,415	0
印刷製本費	1,873,299	489,672
会誌制作費	4,454,834	5,206,489
翻訳・通訳費	273,175	0
商品仕入高	3,669,563	2,639,145
HP情報管理運営	418,950	290,950
委託費	90,000	189,000
自主研究費	250,155	396,688
支払寄付金	204,120	0
その他	5,000	43,835
雑費	1,732	0
期首商品棚卸高	1,227,181	0
期末商品棚卸高	△ 1,764,137	0
【管理費】	[7,307,819]	[5,534,027]
通信運搬費	0	115,099
事務設備費	0	523,744
事務用品費	0	115,194
修繕費	0	0
印刷製本費	0	258,300
その他	0	84,000
雑費	0	368,250
事務局費	3,294,044	4,069,440
租税公課	52,500	0
経常外費用		
他会計振替額	3,961,275	0
支出合計	28,044,234	25,629,898

※上記の表からは、経常外増減額を省いています。



ボールプールが届きました

釜石市が運営する障害児通所支援施設「釜石市すくすく親子教室」(生田久美子センター長, 6月10日現在通所小児26名)から, 義援金に対する感謝のお手紙と写真が届きました。

釜石市の複合施設1階にあった同教室は, 3メートルの津波で浸水・全壊しました。子どもや先生は, 幸い震災直後に避難して無事でした。釜石大槌地区で唯一の療育施設であるため, 再開が待ち望まれユニセフなどの支援で幼稚園の一室を借りて昨年5月9日に再開, 昨年末からフランスの化粧品会社, NPO 法人国境なき子どもたちの支援で施設の復旧工事が始まり, 今年4月25日に開所したそうです。日本ヘルスケア歯科学会から「すくすく親子教室」に送られた義援金は, 48万円余りですが, ボールプールやソフト積み木など遊具となって被災した子どもたちに喜ばれているとのこと。

東日本大震災に際し, 日本ヘルスケア歯科学会では, 直後にキシリトール募金

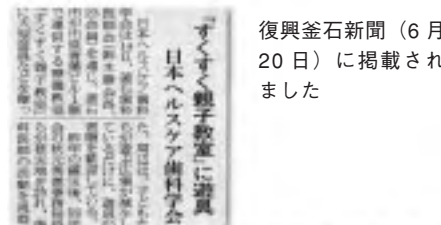
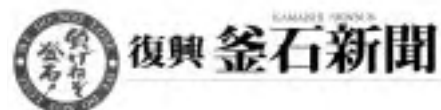
など呼びかけ, 主に被災地の子どもたちの支援に活かすため塩釜歯科医師会を通じて避難所にキシリトールを届けていただき, 赤い羽根共同募金の災害ボランティア・NPO 活動サポート募金に寄付を送りました。

会員の診療所で患者さんたちから集められた善意を確実に役立てることのできる支援先を探しておりましたが, ヘルスケア歯科学会会員の鈴木 勝さん(釜石歯科医師会長)のご尽力により, 釜石市の障害児通所施設で津波に流されてしまい, 待ち望んでいた遊具になって活かされました。工藤英明さん(同副会長)が歯科検診に通うなど, 施設の要望をよく理解されていたためです。この事情は, 復興釜石新聞にも紹介されました。復興釜石新聞は, 被災し解雇された岩手東海新聞の記者たち11人が復活させ, 被災地の地元を勇気づけたことで知られる地元新聞です。

善意をお寄せいただいた患者さんへの感謝を込めてご報告します。



ボールプールで遊ぶ子どもたち



復興釜石新聞(6月20日)に掲載されました



日本ヘルスケア歯科学会コアメンバー会議

会議報告

☆ コア会議議事録は, ホームページに公開しています。詳しくは, ホームページをご参照ください。

<2011年度>

○第1回コアメンバー会議(法人理事会)
2011年2月25日20:00~22:00

【協議】

- ・ヘルスケアミーティングの具体化について, など
- ・Web 会議の定例化について
- ・認証ミーティングの会場について
- ・特別編集委員の選定と委嘱
- ・喫煙者と, 卒煙者との比較研究について
- ・ドクター向けのベーシック講習会の開催について
- ・2010年会誌編集について
- ・札幌ワンデーセミナーの開催について

○第2回コアメンバー会議

2011年3月18日20:00~22:00

- ・ヘルスケアミーティング分担
- ・認証について
- ・DH 育成コースの延期について

【報告】(メンバー, 主要な活動など)

学会委員会/セミナー委員会/臨床データ活用委員会/マッチング委員会
ニュースレター/禁煙・卒煙部会

○第3回コアメンバー会議

2011年4月8日20:00~22:30

【報告】

- ・委員会報告
- ・ICDAS 関連(ホームページリンク設定,

Dr. Pitts ビデオメッセージ, e-learning の日本語版設定要望) 報告

【協議】

- ・東日本大震災被災地支援について:塩釜歯科医師会の栗生田先生(ヘルスケア歯科医師会会員)にキシリトールを届ける件
- ・ヘルスケアミーティングの企画について
- ・キャッチフレーズ決定
- 「治療医学の方法論を超えて——私たちが関わり続けることの素晴らしさ」
- ・会誌原稿を募集する件

17 ページへ続く→

書評

生活の医療

著者；大久保満男，大島伸一
 出版；中央公論新社刊 2012年2月
 定価；1,575円（税込）

田中正大（川口市開業）

本書は「歯科医師会からの提言 食べる—生きる力を支える」というテーマの下に企画された書籍シリーズの第1巻で「生活の医療」という表題が付いています。第2巻は「いのちと食」、第3巻は「3.11の記録 震災が問いかけるコミュニティの医療」でいずれも既刊です。

この巻では、超高齢社会となった日本において、医療・介護の現場、行政などで働く専門家との対談、座談、及び寄稿などを通してこれから私たちが向かうべき歯科医療の姿をあぶり出していきます。

はじめに日本歯科医師会の大久保満男会長が「思想としての8020—①生活を支える歯科医療」として、歯科医療の新たな役割、生活の医療としての歯科医療

について書いています。次に歯科医療のみならず現在の医療そのものが抱えている問題を「口」「食べる」を軸に様々な専門家と大久保会長が話しあっています。そして、最後に生きがいを支える国民歯科会議議長の大島伸一先生個人、および会議からの歯科医療への提言で締めくくられています。

本書により、いままでむし歯と歯周病の治療が目的であった歯科医療に、新たな定義づけがなされたと思います。人は、食べられて、話せて、笑える＝生活そのものの質が保たれてこそ、生きていけると言えます。大久保先生の言葉を借りれば、歯科医療の真の目的は人々がどのようにして生きがいのある生活を過ごすことができるのか、そしてそれをいかに支えられるかということであって、治療そのものは目的ではなく、あくまでも手段に過ぎないのです。

医療の中で、唯一といっても良い、赤ん坊からお年寄りまで関わり続けることの出来るのが歯科医療の特徴でしょう。日本ヘルスケア歯科学会の定款には、「人々がその生涯にわたって健康な歯列を維持し、快適な咀嚼と自由な会話と若さと尊厳に満ちた微笑みを失うことなく、それぞれの生活の質を高めることを

支援することを目的とする」と謳われています。本書で新たに定義づけられた歯科医療の目的と同じです。カリエスフリー

を目指すのも、歯周病をしっかりコントロールするのも、インプラントするのも、エンドも、全ては人生のQOLを維持するための手段です。

診療室で白衣を着てマスクをして、患者の口腔内をのぞき込み、タービンやエンジンを使っていることだけが、相も変わらず私たちのイメージであり続けるという未来は寂しくはないでしょうか。社会のいたるところに関わり、ありとあらゆる機会を通して人々の生活＝食べられて、会話ができて、笑えるを支え続ける姿が歯科医療従事者として認知される未来をぜひとも作っていきたくて思いました。それが介護の現場でも、病院でも、近所の公民館でも。もちろん、ヘルスケア型診療室がしっかりあることが基本なのは言うまでもないことです。

全ての歯科医療関係者にお勧めします。ぜひお読みください。



3.11の記録 震災が問いかける コミュニティの医療

著者；大久保満男，大島伸一
 出版；中央公論新社刊 2012年4月
 定価；1,575円（税込）

一瀬浩隆（気仙沼口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポート）

平成23年3月11日午後2時46分、三陸沖を震源としたマグニチュード9.0の地震が東日本を襲い、各地に甚大な被害をもたらした。テレビで見る映像は目

を疑うもので、とても現実とは思えない光景ばかり。被害の大きさが日に日に拡大していくなか、多くの人が「今、自分にできることはないのか」という思いに駆り立てられたのではないだろうか。

本書では、「歯科医師ができること」に焦点を当て、震災直後からの日本歯科医師会など外部からの支援と被災した地域の歯科医師との関係が時間経過とともにまとめられ、時々刻々と変化する状況や各々の心情が詳細に記録されている。

一言で「支援」と言っても、歯科医師の支援は、避難所での入れ歯の治療や虫歯の

治療などの一般歯科治療だけではない。

「検死」。

私たちは「口腔」という器官を専門としており口腔の機能には「食べる」がある。

「食べること」は、つまり、「生きること」に関係している。しかし、大規模災害時には、日常、ほとんど関わることのない「死」ということに向い合うことになる。

身元が分からないご遺体が次々運び込まれるなか、一人ひとり、一本一本の歯式を取り、歯の治療痕がその人であると証明する。この作業は過酷で肉体的にも

精神的にも計り知れないものがある。我が身を振り返らず、「今できること」を懸命に行う歯科医師の心情が綴られている。

私も震災から2ヵ月後の5月から気仙沼市の歯科ボランティアに関わらせていただき、現在も「気仙沼口腔ケア・摂食嚥下・コミュニケーションサポート」として口腔ケア、摂食嚥下を中心とする継続した支援を行っている。

はじめて気仙沼を訪れた5月は、周囲がれきの山でほとんど撤去されていない状態。数多くの方が避難されており、避難所に自衛隊が配置されていた。その光景は戦争を知らない私にもそれを思わせるほどであった。

被災した歯科医院の現状も厳しいものであった。津波で全てを流されてしまった歯科医院、自宅や診療室全てが浸水、津波の被害を逃れたがライフラインが復旧しない、そんな中、避難所や在宅では医療を必要としている人が多くいる。救いたいのに救えないジレンマ。被災者なのに支援をするというパラドクスに悩まされる歯科医師は多かった。

私は、はじめPCAT（日本プライマリケア連合学会）より気仙沼に派遣され、派遣歯科医師として約1週間、避難所で応急歯科治療、避難所内の巡回診療を行った。しかし、派遣期間が終わったから帰るという気持ちにはなれず、むしろ必要とされているならもう少し気仙沼で何か自分にできることはないかと思い、個

人でJRS（気仙沼巡回療養支援隊）に参加することにし、気仙沼でのボランティア活動を継続した。JRSでは医師、看護師、歯科医師、栄養士など多職種連携の在宅医療チームが編成され、在宅患者の巡回診療を行っていた。震災後、寝たきりや栄養状態の悪化により褥瘡を患ってしまったケースが多く、医師による全身管理や看護師による褥瘡のスキンケアだけでなく、栄養士による低栄養状態の改善にむけた食事指導、歯科の立場から義歯調整や口腔ケアはもちろん、口腔機能評価や摂食嚥下指導が必要とされていた。その現場で感じたことは、口腔機能の重要性、「食べること」は「生きること」であるということだった。

現代社会は超高齢化社会である。とりわけ、東北沿岸部の高齢化率は30%を超えている。今回の震災により多くの高齢者は移動手段をなくし、通院困難となっている状況であった。もともと医療過疎地域であったため、訪問診療体制も乏しい。震災後、外部から様々な医療ボランティアが入り、支援を行った。しかし、地域とコミュニケーションを取り、最終的には地域の医療資源を生かすように引き継がなければならないため問題も多い。そのためには地域の医療機関の協力は不可欠である。

本書でも地域の取り組みとしてコミュニティの充実、それに関わる歯科医院が提案されている。これは特に重要であ

る。医師と患者と同じように「顔が見える関係」は今の社会に必要で、それを歯科医院から発信していく。患者さんが歯科医院に来ることで他の患者さんと話をする、先生と話をする。その先生が往診して、その患者さんの家族と話をする。患者さんの状態が悪ければ、地域の医者に相談する。歯科医院が地域の輪を広げ、地域医療の核になることもできるのではないだろうか。

今回の大規模災害により医療の歯科という分野において、私たち歯科医療従事者がどう行動すべきかを考えさせられた。私たちは今、今後の歯科医療の在り方を考える岐路に立っている。

多くの歯科医師がインプラント、審美修復や歯科矯正といった方に目が向きがちであるが、もっと人間の根本である「食べること＝生きること」ということに目を向けていくべきである。

私たちは、この震災から多くのことを学び、生かさなければならぬ。「歯科医師にできること」、「歯科医院にできること」それを考えさせられる一冊となっている。



事務局からのお知らせ

● 会員登録内容の変更について

住所、電話番号、ファックス番号、e-mail アドレス、準会員等の追加・変更がありましたら、事務局までファックスもしくは e-mail でお知らせください。

Fax: 03-3260-4906

e-mail: center@healthcare.gr.jp

事務局は月曜日から金曜日までの午前9時30分から午後5時30分までスタッフが常駐しています。お電話は時間内をお願いします

● 当会ホームページの会員用IDとパスワード変更

2012年9月7日（金）よりホームページの会員用IDとパスワードを変更します。ただし、リニューアルしたホームページでは会員頒布品の購入などパスワードが必要なところは限定的です。

新ID・パスワードは次回ニュースレター（Vol.15 no.4）に「会員用IDとパスワード変更のお知らせ」を同封いたします。2012年度会費をお振り込みいただいた会員の方へお送りします。

健康ってなんだ？

定岡博之（久喜市開業 ハートデンタルクリニック）

突然ですが、みなさんは『健康』について考えたことはありますか？

私はまだ、そこそこ若いので（一応 30 代）、日々「健康」を意識して生活しているというほどではありません。せいぜい風邪をひいた時に健康のありがたさを感じる程度です。しかし一方、診療室では来院者の皆様に健康学習と称してブラッシングや定期検診の大切さをはじめとする健康行動の提案を日々するわけです。改めて僕たちが伝えている「健康」って何だ？ みたいな疑問が自分の中で湧いてきました。数日間モヤモヤした感覚がありましたが、過去に出会った言葉の中にヒントとなる言葉がありました。

それは、WHO の健康づくりのためのオタワ憲章の中の『健康とは、毎日の生活を送るための大切な資源であって、目的ではない』というものです。この言葉に出会った当時は「なるほど、そうだ!」という理解はしていましたが、今になって本当の意味でこの言葉と出会い直した感じがしました。

ある日、50 代の女性の患者さんが来院されました。「どうしてここまで放っておいたの?」と言いたくなるような口腔内。すべての歯が補綴されている状態で、審美的にも機能的にも障害をきたしていました。「これは大変だ! よ〜し、がんばら

なくては」と心の中で密かに腕まくりをしようとしている私を尻目に、その患者さんは「最近、少し噛みにくくなってきた」と言う程度。そして、驚くことにこの方は、若い僕たちの二倍・三倍、活き活きしてるんです。こんなことは日常臨床でよくあることですよね。

聞くとところによるとこの患者さん、中学生の頃からバレーボール一筋で、国体にまで出る強者だったそうです。そして、バレーボールのない人生など考えられないとおしゃっています。

ですから、治療計画は常にバレーボールの試合の日程と相談しながらすすめています。毎回、大きな大会の後には試合の結果報告を医院の留守電に長々と入れてくれます(笑)。

この患者さんからもわかるように、「健康って大切ですよ」と語るより、まずは「一生、バレーボールやりましょうよ」と語った方がこの患者さんにはどれほど伝わるのか。

極端なことを言うと、少々不健康でもバレーボールのパフォーマンスに影響がなければかまわないわけです。もちろん医療者としてはそれだけではいけません……。

こんなことを日々繰り返していくと、だんだん先ほどのオタワ憲章の中の言葉が腑に落ちてくるわけです。しかし同時に、私

の中ではまだ完全に腑に落ちない部分があることにも気づいていました。なんだろう……。

そんななか、ある本の一文を読んだとき、パッと視界が広がったような気がしました。

「世の中には、誰かがつくった素晴らしいものが沢山ある。映画であったり、洋服であったり、音楽であったり。かけがえのないものは多々ある。だけれど、たとえば感性豊かなモノが増えることより、感性の豊かな人間が増えることの方がよほど素晴らしい価値のあることだ。美しいモノが増えることより、日常の中に美しさを見いだせる人、美しさに心をひらく人が多い方が素敵ではないかな」(『なんのための仕事?』西村佳哲著)

たしかに、世の中に健康な人が増えるより健康の素晴らしさを見いだせる人が増えることの方がよっぽど素敵だと思いませんか? そして、もしその一端を担える仕事が歯科医療だとしたら、僕たちの仕事の価値は計り知れないですよ!

医療者として正しい疾患への診断、そして患者さんが今まで培ってきた価値観。それらをコミュニケーションという人間のもつ芸術で魔法をかける。

僕たちの本当のサポートは、「健康のサポートではなく、健康の素晴らしさを見いだせる人へのサポート」なのかも知れない……。

今度は違う視点から腕まくりをしている自分とまた最近出会い直した気がします。



○第3回ヘルスケア・ウエスト研修会

2012年7月29日(日)
場所: 福岡県歯科医師会館 5F
講師: 大野純一、井上和
会員発表: 副島 渉、半田 正
特別講演: 大野純一

○ワンデーセミナー東京

誰もがここがスタートだった! スタッフと聞きに行こう! 東京ワンデーセミナー
2012年12月2日(日) 10:00 ~ 16:30
場所: 日本歯科大学九段ホール
参加費:
会員歯科医師 10,000円, 他 4,000円
非会員歯科医師 12,000円, 他 4,000円
プログラム(予定):
「ヘルスケアの目指すところ、理解してお

いて欲しいところ」藤木省三
「認証、受けてみます!」林 浩司
「えっ、私たちが講師ですか?」
木村理香、佐久間喜美
「やってよかった、ヘルスケア診療」
雨宮博志、多田 遥
「誰にでも壁はあります」川嶋 剛
「さあ、歩みだそう」杉山精一

(講師敬称略)

連載 9

患者様の苦痛を取り除け！ ～健康を守り育てるために～

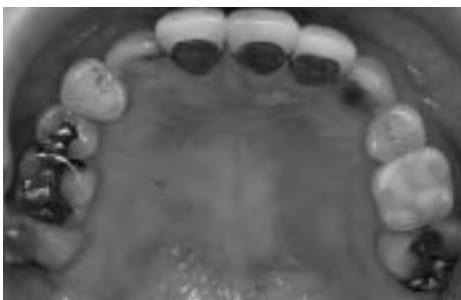
野村英孝（前橋市開業 あすなろ歯科）

6年前（2006年）より、当院にて治療していた当時33歳の女性のことです。その後もメンテナンスに通ってくださり、歯周組織に関してはトラブルは発生していません。

メンテナンスを開始して2年後（2010年）、右下のインレーの脱離を訴えて来院。

「せっかくだから全体的に白くしたい！」との希望で、**16**、**15**、**7**、**6**をハイブリッドセラミックスに変更！

医院の増収にもつながり、患者様も口の中が白くなり、メンテナンスも良好で、患者様も医院も歯科衛生士もみんな満足!! と思っていたら…。



6が、2010年3月、2011年3月、同年7月と3回も破折を繰り返しました。もちろん、側方運動のチェックを行い、側方運動時・前方運動時は上顎と当たらないように咬合調整を行い、よ～っく、よ～～っく！調整しましたよ。それでも、破折を繰り返す。

実は、2006年のときに、クレンチングの自覚があり、ソフトタイプのナイトガードを作成。夜は使ってくれているとのことでした…。

ここまでくれば、患者様も不信感をもって当たり前。歯科医院の方だって、いくらやっても壊れてくれば顔を見るのも嫌になります（そう思うのは僕だけかも）。

あなたなら何を疑いますか？

どのように治療しますか？

次の一手はなんでしょう？

私自身の話ですが、悩んで、悩んで…破折部分は当たらないように、咬合紙を咬んでもらい、ギリギリしてもらって、咬合調整。

それでも3回も破折してくる。

つまりは、限界運動では考えられない動きをするってことだと判断。

以前、『咬合を咀嚼運動で考える』って学んだことを活かし、スタディーモデルを作って、咬合器につけずに自分の手の中で動かしてみ、下顎の自由運動をさせて、咬合を確認。さらに、指で咬合面を歯列に添わせて、全体触って凹凸を確認。

高価な器械で顎運動を計測できればもっといいのですが、すべての機材がそろっているわけではないので、よ～っく、じっくりと模型を観察して治療に

踏み切りました。

まず行った治療は、患者様と話し合い、改良阿姆斯特ダム型のスプリント（AmsterdamがModified Hawley bite planeと呼んでいる前歯だけを接触させるもの。写真は症例の患者様とは別の口腔内）を作成し、態癖（普段の生活習慣の姿勢）を治すように指導しました。

すると…

患者様から、「いつも頬杖をつけていました！」そして、「頬杖をやめて装置を入れているととても顎が楽です!!」と喜びの声をいただきました。

つまりは、普段の生活習慣が歯に及ぼす力を患者様とともに取り除いたので

さらに、**16**を形態修正（主に頬側遠心部分の削合）しました。

すると、「咬みやすいです。とてもスムーズに顎が動きます!!」と喜びの声をいただきました。

これは、咀嚼運動時にスムーズに顎が動くように調整したことにより、右側に過剰な力がかからないようになったと考えられます。術者として患者様の喜びの声はとても名誉であり、エネルギーをいただきますよね。

その後は、**6**が割れることもなく、メンテナンスにお越しいただいていま





す。

右下の破折に関して私自身の学びとして、頬杖を含めた普段の生活習慣・姿勢が影響しており、さらに⁶の形態が関与していること。それは、普段の生活習慣が咬み合わせ、歯に対して大きな影響を及ぼしており、非機能的な限界運動で

咬合を読むのではなく、咀嚼運動のなかで咬合を読む必要性を強く感じる一症例となりました。

まだまだ学びの途中ですが、普段の生活習慣を見極め、患者様と接していきたいと思っています。



書評

伊藤 中 (茨木市開業)

ビジュアル 歯周病を科学する

監修；天野敦雄，岡 賢二，村上伸也
出版；クインテッセンス出版刊
2012年5月
定価；16,800円（税込）

もう20年も前のことになる。卒業直後だった頃に、本書の著者の1人である岡賢二さんに歯周炎に関する知識が整理された本を紹介していただいたことがある。R. C. PageとH. E. Schroederが著した“Periodontitis in Man and Other Animals. A Comparative Review”という1982年に刊行された本である。思うところあって最近、この本を手に入れた。Man and Other Animalsとあるが、ヒトの歯周炎について記載されているのは全体の約3分の1で、まだまだ歯周炎の病因を理解するために動物実験が歯周病研究のなかでも大きな比重を占めていた時代であったことが想像できる。導入部分には、「非常に長い間、歯周病、特に重篤な病型の歯周炎は、患者や、歯周病を理解し

予防しようとしている者にとって、不可解なものままであり続けている」、「ここ20年ほどの間に加速された新しい知識の獲得は、プラークに関連する歯肉炎や歯周炎の病因論の理解に、革命的ではないにしても著明な進歩をもたらしてきた。この新しい情報は、部位特異的な細菌叢についての研究を含む特異的な臨床的観察、あらゆる動物種での実験、細胞培養による研究の3つから得られたものである」と述べられている。

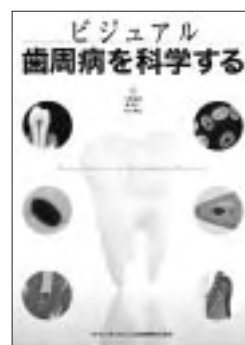
今回出版された“ビジュアル 歯周病を科学する”の序文には、天野敦雄教授が「歯周病の病態は一様ではない。治療方法や転帰も画一的ではない。時に複雑怪奇な症状を見せるこの疾患に対して、われわれが拠り所とすべきは、科学的病因論である」と書かれている。Pageたちの書籍から30年、ヒトの歯周炎に関する知識は、おそらく30年前の歯周病研究者たちが想像できなかったほどに絶対量が増え、さらに整理された。それでも、「いまだ科学は歯周病の全体像を明らかにしてくれてはいない」というのである。研究者の心の持ちようは全く同じなのであろう。

本書にまとめられた歯周病学の知識のエッセンスの量と深みは相当なもので、細菌、宿主応答、組織修復（治癒、再生）にいたるまで最新の知識が理解しやすいイラストとともに解説されている。

非常に難しい内容をこれだけ親切に表現してくれた書籍とは今まで出会ったことがない。

とはいえ、読者は覚悟を決めてこの本と向かい

合わねばならない。それは、内容をしっかりと理解する覚悟だけではなく、最新の知識を日常臨床に活かす覚悟である。研究者たちの行う個々の研究は、傍目から見ると「重箱の隅をつついていく」かのような印象を受けがちである。しかし、多くの研究成果をパズルのように組み合わせて、全体像を俯瞰してみると、あたかもミステリー小説の種明かしのように、一つの事実が浮かび上がってくる。この事実を、目の前で毎日展開されている臨床に結びつけることができるか。「サイエンストランスファー」と表現されているが、臨床を科学に寄り添わせていくための不断の努力を怠ってはならないと改めて認識させられた。臨床に携わる者にとって、本書を手にする価値は、石井正敏先生がよくおっしゃっていた「臨学的一致」を意識し、自らの臨床の経過を記録として残し、目の前の事象を分析できたときにはじめて得られるのかもしれない。



日本ヘルスケア歯科学会コアメンバー会議

会議報告

○第4回コアメンバー会議

2011年5月13日20:00～22:00

【報告】

ニュースレター委員会／認証委員会

【協議】

- ・ヘルスケアミーティング2011ポスターセッションに関して
- ・会誌投稿規定について
- ・ヘルスケアミーティングの演者に関して
- ・日本歯科医学会分科会への申請に関して
- ・来年のヘルスケアミーティングに関して
- ・健康手帳について

○第5回コアメンバー会議

2011年6月10日20:00～22:00

- ・プレゼンターの依頼結果
- ・秋元と大久保会長との打ち合わせについて

【協議】

- ・ヘルスケアミーティング2012について、開催日、内容など
- ・特別学術委員、査読委員の決定をコア会議議題、依頼案を作成し発送。
- ・会誌レビューを依頼する件
- ・ホームページのオープン化（パスワード不要の閲覧範囲の大幅拡大）
- ・臨床データ活用委員会について

○第6回コアメンバー会議

2011年7月1日20:00～22:00

- ・札幌ワンデーについて
- ・認定衛生士について

○第7回コアメンバー会議

2011年9月9日20:00～22:00

【報告】

認証委員会から（メンテナンス率の定義／プレゼンテーション審査基準に関して）

- ・ヘルスケアミーティング以降のスケジュールについて

認証ミーティングを7月22日（日）に行うことを決定

ワンデー：まだめどが立たないため現時点では保留

- ・2012ヘルスケアミーティングの企画について
- ・ヘルスケアミーティングの謝金、参加費の件
- ・コアメンバーの改選に関して

○第8回コアメンバー会議

2011年10月14日20:00～22:00

【報告】

- ・ホームページにムービーを掲載する件
- ・2012年歯科医学大会でのICDASのセッションに関して
- ・認証申請におけるメンテ率に関して

【協議】

- ・2013年に関西育成基礎コースを開催するための講師歯科衛生士育成事業
- ・DMFTなど調査の調べ方で学会として基準を統一すべきという会員からの意見について

- ・コアの仕事のオピニオンメンバーへの委譲
- ・域内通貨ヘルスについて；使い道、レートの変更についての提案

- ・会誌の投稿について
- ・ヘルスケアミーティング2012に関して2日間開催に変更
- ・テーマ、歯科衛生士セッションを分けるかについて協議。
- ・ICDASに関する研究の提案

○第9回コアメンバー会議

2011年11月11日20:00～22:00

【報告】

- ・DH育成コースでのトラブルについて
- ・ICDAS研究事業に関して
- ・地域歯科医師会と連携したICDAS講演会
- ・「歯科衛生士」（クイント）に初期う蝕について1月から3月まで連載記事を書く件
- ・ICDASに関しての記事をクイント掲載する件
- ・喫煙と歯肉着色の研究に関して

【協議】

- ・ヘルスケアホームページの新装開店について
- ・当面、旧HPから新HPへ入るようにしている。旧HPでパスワードで守られていたデータのセキュリティの問題が解決していないため。

- ・新HPでの会員診療所ページには、掲載を認めている診療所のみが掲載されていて、全会員が掲載されているのではないことを誤解がないように表記する工夫が必要である。

- ・新HPはいわばブログの集合体で作られていて、様々な活動を現在進行形でみることができる。

- ・関係する部会、委員会、地方会の記録者を依頼する。

- ・キシリトール募金＋義援金について
- ・認証ミーティング、10回記念としての内容、認証を総括する必要があるのではないか
- ・来年のヘルスケアミーティングに関して

- 会場：秋葉原コンベンションホール（2日間）
- テーマに関して
- 河野案（末尾参考資料）をたたき台にする
- 歯周病学会の担当理事を招く
- 震災年会費免除について、

【提案】

日本ヘルスケア歯科学会における今後の戦略的方向性

- ・ヘルスケア型歯科診療の成果を積極的に発表する
- ・歯科衛生士の業務記録のありかたについて
- ・ヘルスケア型歯科診療における歯科衛生士業務

- ・ヘルスケア型歯科診療における歯科衛生士養成のあり方

- ・ヘルスケア歯科衛生士の認定

○第10回コアメンバー会議

2011年12月9日20:00～22:00

【報告】

- ・喫煙による歯肉の色の変化の臨床研究
- ・ヘルスケアミーティング2012について
- 衛生士の『診療補助』業務をテーマにしたシンポジウムを行い、歯科衛生士が歯科医師の指示の下で歯周病の患者の歯周基本治療やSPTを行うための一定の能力と熟練についての諸学会のコンセンサスづくりを行う。

- ・2012年のワンデー

6月3日、大阪にて開催予定

- ・ICDAS部会の立ち上げ
- ・HPの委員会の更新担当
- ・来年度の認証ミーティングについて

【協議】

- ・Pos-CaFの再石灰化について
- ・こども歯磨剤パンフレットの担当者募集
- ・阪大A先生の話の一度聞いてみたい、Pgの遺伝子型によるリスクの問題など、最近、ペリオのことを取り上げていない、認証ミーティングの講師として検討。

<2012年度>

○第1回コアメンバー会議

2012年1月15日10:00～17:00

場所 東京八重洲ホール

【協議】

- ・ヘルスケアミーティングについて
- 学会としての歯科衛生士の診療補助業務の範囲について見解を明らかにする。

診療補助とは何か？ 多くの会員は十分理解していないので、スタートラインで明確にする必要がある。

歯科衛生士法の解釈をするのではなく、修復中心の診療をしていた時代の診療補助とメンテナンス中心のチーム医療における診療補助のあり方の違いを明確にすることを意図する。

- ・ヘルスケアミーティングに先立つ実態調査について

2月発行のニュースレターに同封して実態調査のためのアンケートを実施

診療補助業務（相対的歯科医行為）に関する認識と実態を分けて調査する

- ・会誌

現在想定している投稿論文について

- ・認証ミーティング

認証関連は森谷さんを担当・責任者とする。特別講演の天野先生に正式に依頼する。

※以降は次号ニュースレターにて掲載

ヘルスケア フォーラム

ワンデーセミナー大阪

2012年6月3日 大阪産業創造館

ワンデーセミナー大阪開催

大井孝友（岸和田市開業）

2012年6月3日に大阪産業創造館にて、関西ヘルスケア歯科談話会メンバーによる大阪初の日本ヘルスケア歯科学会（日ヘル）ワンデーセミナーが開催されました。今回のワンデーセミナーは新しい試みとして、今までの日ヘルワンデーセミナーと趣を少し変えて大人数の講師陣で速射砲のようなプレゼンから参加者に思いを伝える工夫をしました。そのタイトルは『ヘルスケア型診療へ 今一度、もう一步！』。関西ヘルスケア歯科談話会がこの10年大阪の地で関ヘル予防セミナーを開いてきて、そこから学んだノウハウを余すところなく参加者にお見せし、ご自身を今一度見つめ直し、もう一步踏み出すきっかけにしてほしいとの願いを込めたセミナーでした。

講師は藤木省三さん（日本ヘルスケア歯科学会 副代表、神戸市開業）、大久保篤さん（堺市開業）、丸山和久さん（神戸市開業）、玉置理紗さん（丸山歯科医院・歯科衛生士）、西川美穂さん（おお



い歯科・歯科衛生士）、高橋啓さん（愛媛県南宇和郡開業）、高木景子さん（神戸市開業）です。当日は予定していた定員を大幅に超え200名以上の参加者を得て、運営者の一人としてうれしい悲鳴をあげていました。

最初に私がワンデーセミナー開催の趣旨と参加者への希望をお話しし、講師陣を身近に感じていただくためにそれぞれのプロフィールを含めた紹介をさせてもらいました。

次に、ミスターヘルスケア藤木さんが『ヘルスケアの目指すところ、理解しておいて欲しいこと』と題した講演をされました。まず日本ヘルスケア歯科研究会の設立趣旨の言葉から我々の原点をお話になり、ヘルスケア型診療の目指すメンテナンスを通じて長く関わり続ける歯科医療の必要性を「点」と「線」という言葉で説かれました。我々が対峙する敵を知って作戦を立てるためにう蝕と歯周病の病因論と大西歯科での実際の症例をまじえた対応を豊富なスライドを通して解説され、特に歯周病の病因論では5月に刊行されたばかりの『ビジュアル 歯周病を科学する』から引用された新しい知見も加えられ、何度も藤木さんの講演を聞いた参加者にもバージョンアップされた内容となっていました。講演の最後にはヘルスケア型診療を実践するにあたり、規格性のある資料、チーム医療、長くつき合う診療システムとその結果の検証を訴えておられました。



お昼の休憩時間もそこかしこで参加者同士によるディスカッションが起っており、休憩もそこそこに杉山精一さん（日本ヘルスケア歯科学会 代表）による日本ヘルスケア歯科学会の紹介と報告から午後のセミナーは始まりました。

ここからはマシンガンよろしく6名の講師による矢継ぎ早の講演が『ヘルスケア院長の1日』『ヘルスケア歯科衛生士の1日』『ヘルスケア診療づくり』『さあ歩みだそう』のタイトルのもと次々にヘルスケア型診療の実践例とその思いを参加者に伝えていきました。少人数の医院を開業する大久保さんと比較的大きな医院を開業する丸山さんが、それぞれの1日の行動を捉えて規模は違えども行動は変わらないチーム医療への思いとその診療システムを披露され、比較的大きな歯科衛生士歴が短い玉置さんともうかなりのキャリアをもつ西川さんが、それぞれの1日の行動から規格性のある資料取りの実際と患者さんと長くつき合うことから見えてくるものを話されました。

その後、ヘルスケアの申し子高橋さんが開業時から現在までの患者さんと長くつき合うためのヘルスケア型診療の構築をその歩みと共に立てた戦略から話され、今の「たかはし歯科」のスタッフの思いを映像と音楽に乗せて披露し、聴衆の心を引きつけていました。最後はみんなのサポーター高木さんが質問形式で会場にいるみんなに投げかけるようにヘルスケアの心を語りかけ、その背中を強く確実に押す講演をしてくださいました。

ワンデーセミナー後は現在、希望者と

講師陣でメーリングリストを立ち上げセミナー当日の疑問や質問にお答えする一方、ML参加者にセミナー後の『まず初めの第一歩』をお聞きして一緒になって考える場の提供に努めております。また、今後は関ヘル役員メンバー全員で参加者のフォローアップ企画を考え、参加者の皆さんの『もう一歩』を確実なものにしていただきたいと思います。



ワンデーセミナーに参加して

大野 茂（神戸市開業）

6月3日の大阪でのヘルスケアワンデーセミナーに参加しました。

私は、「ヘルスケア」に入会させていただき2年になりますが、院内の体制も安定せず、なかなか前に進めていなかったのが正直なところです。今回も、何か刺激を受けて前に進むきっかけを掴もうと思い、医院をあげてこのセミナーに参加させていただきました。

「歯医者は歯の治療をするところでしょう。歯のクリーニングで呼ぶなんてお金儲けのためじゃない?」「むし歯の治療が終わったのに、歯石とりに何回も呼ばれるのっておかしい。患者が少ないからじゃない?」と患者さんに思われるのではないかと、実のところ消極的な考えをもっていました。しかし、「ヘルスケア」に入会させていただき、カリオロジー、ペリオドントロジーなどの病因論を改めて学び直すことにより、メンテナンスの重要性を再認識させられました。

午前中の藤木省三さんのヘルスケアの概念は、初めて参加する受付や歯科助手にとってもとてもわかりやすい基礎的な内容であったのに加え、臨床に携わるものにとっても改めて、自信をもってメンテナンスは大事であると言える根拠を与えていただきました。

続いて、昼からは実際の個々の医院でのヘルスケア型の取り組みを紹介してい

ただき、きわめて具体的な内容であったため、自らの医院をヘルスケア型に変身させる際に非常に参考になると思えました。大久保 篤さん、丸山和久さん、大井孝友さんそして高橋 啓さんの発表をみて、それぞれの医院にあったヘルスケア型への取り組み、個々のペースにあったステップアップ方法を見ることができ、とても参考になりました。どの医院にも現在に至るまでの歴史があり一筋縄ではいかないということが垣間見ることができ、自分がこれから歩むべき道しるべを示していただいたような気がしました。

そして、歯科衛生士の玉置さん、西川さんの発表では、患者とのコミュニケーションや病状の記録方法、自作の説明ツールを見させていただき、業務に対する熱意と真摯さが伝わるとともに、歯科衛生士としての役割と使命を最大限果たされているのだと深く感銘を受けました。頑張る人は周りの人の気持ちを動かすし、周りの人が必ず助けてくれるし、そして周りを変えていくことができるということが実感できた発表でした。

最後に高木景子さんのお話からは、客観性を出すために規格化することの重要性を教えてくださいました。やはり患者さんをメンテナンスにお呼びして、なんとなく掃除して、なんとなく次のメンテナンスの予約をとっていただくという形式的なメンテナンスではなく、記録を残し評価することの大切さを再認識しました。

口腔内の状態が、改善されていれば、改善された理由を考える。改善されていなければ、改善されなかった理由を考える。そうすれば次には同じ失敗をおかさずいい治療につながる。そういう姿勢で仕事をしていれば、おのずと、確実に医院側の治療の質が上がり、結果的に間違いなくその医院にくる患者は幸福になると思いました。

多くの患者は家から近いから、ネット

で評判がいいから、家族が通院しているからという理由で来院し、治療を受けてメンテナンスに入り、一般的に治療→メンテ→治療→メンテのサイクルに入っていきます。しかしセミナーの最初に藤木さんの言われた治療→メンテ→メンテのサイクルに乗ることができれば、生涯にわたり健康を保てるわけです。世の中には前者のサイクルを有する歯科医院と後者のサイクルを有する歯科医院とがランダムに存在するのでしょうか。これは一種の歯科医院による患者のロシアンルーレットです。不幸な患者を少しでも減らすために後者のサイクルを有するヘルスケア型歯科医院は存在するのだと感じました。我が医院もスタッフと力を合わせて後者のサイクルを有するヘルスケア型歯科医院になりたいと思います。そして日本中にヘルスケア型歯科医院が増えることを切に望みます。



「ヘルスケア型診療へ 今一度、もう一度!」に参加して

司馬 雄（神戸市開業）

大井孝友さんの司会ではじまり、午前中は藤木省三さんの「ヘルスケアの目指すところ、理解しておいて欲しいこと」をテーマに、日々の臨床記録（ICDASやXPコード分類など）の資料をとり続け残すことの重要性、また資料の管理ソフト「ウィステリア」にデータ管理をすることにより「時間軸で初期う蝕を診断する」、「患者と情報を共有する」、「患者と共通言語で話す」などのヘルスケア型の診療に





役立つツールであると話されました。

実際に診療室でのう蝕リスク管理では、就学前、小学校低学年、小学校高学年、中学生高校生、成人に分類し、それぞれの段階で目標をたて、う蝕検査、指導処置、リスク評価、資料採取などを行い定期的なメンテナンスを行うこととする。そのなかで「ぱっとみてリスクが高そうな人を見つける力が大切な気がします。」

まだまだヘルスケア型診療所になっていない、当たり前のようにできていない、私には心に響くお話でした。

午後からは大久保 篤さん、丸山和久さんによる「ヘルスケア院長の1日」をテーマにアポイントの取り方や診療室の使い方などのお話をいただきました。

ヘルスケア型を始められた時期などあれば、現状をもって来るまでの経過も様々。実際的なお話でとても参考にまりました。

次に西川美穂さん、玉置理沙さんによる「ヘルスケア歯科衛生士の1日」をテーマにサブカルテの書き方、ウイステリア入力、内容、多忙の中での空き時間の使い方など。また、医院でのミーティングを綿密に行い医院全体で患者さんの把握をして診療に当たることなど、女子力を感じることが出来ました。

次に高橋 啓さんによる「ヘルスケア診療所づくり」。いろいろな医院を見学し、さらにウイステリアをチェアサイドで確認できるシステムにし、日々の診療に欠かせないツールとなり、医院全体で認証歯科診療所を取得するまでの道程を

話されました。

またアポイント管理職を導入する際は、いろいろな問題を検討したうえで変更をされたそうです、先のアポイントも簡単に取れるので便利だそうです。

最後に高木景子さんが、どのような医院でもヘルスケア型診療所にできるのだと、患者さんの健康を患者さんとともに喜びましょう、と話されました。

私にとって大変有意義な1日でした。診療時間により歯科衛生士の不在の時間帯もあり、少しヘルスケア型は無理じゃないかなと思い始めていたのですが、お話をお聞きすることにより、もう一度頑張ってみようかなと思いました、みなさんありがとうございました。



感想

播磨正子（歯科衛生士・中川歯科）

ワンデーセミナーを受講したきっかけは、院長に勧められたからです。受講させてもらうまでは、メンテナンスをきちんとできているだろうかと考えながらの毎日でした。

午前、藤木先生のお話を聴かせてもらい、自分の反省点を見つけることができました。

それは健康を守り育てるにあたって、メンテナンスにおける問題点を予想し目標を立てることの大切さです。

午後から大久保先生・丸山先生のお話では、前向きな姿勢に魅力を感じました。

歯科衛生士の一日のお話では、同じ歯科衛生士として共感できる部分が多く、とても刺激を受けました。玉置理沙さんのお話で、認定歯科衛生士として機敏な行動に魅力を感じ、口腔内写真の重要性を改めて実感しました。

西川美穂さんのお話では、子育てをしながらベビーマッサージの資格を習得された前向きな行動力が魅力的でした。私

も息子をもつ母として同じ立場でありながら、私にはできないと嘆いていましたが、行動していなかったことに気づかされました。

ヘルスケア診療作りのお話では、高橋先生とスタッフの仲の良さが伝わってくるチーム医療に憧れました。それから、スライドで見せてもらったスタッフの思いに、一番感動しました。

高木先生のお話では、とにかく前向きに明るく心が清々しい気持ちになり、明日からまた頑張ろうという気持ちになれた、ひとときでした。

最後に院長の勧めで参加させてもらえたことに感謝し、やればできるという気持ちを持ち、改めてスキルアップしていきたいと思いました。ありがとうございました。



こんどう歯科医院スタッフ

ワンデーセミナー大阪に参加してきました。今回のセミナーは、ヘルスケアの初心者にも分かりやすい内容だと伺っていましたが、本当にその通りでした。

午前中の藤木省三先生の講演では、ヘルスケア型の理念や考え方を、う蝕・歯周病の病因論とともに、分かりやすく教えていただきました。

午後からは、実際にヘルスケア型診療をされている診療所の院長や、歯科衛生士さんの一日を、具体的に紹介していただき、大変参考になりました。

当院は、院長がヘルスケア型診療に取り組み始めて、10年以上になります。スタッフは、衛生士歴20年余のベテランから、今年卒業したばかりの新人までと、幅広い年齢層の衛生士が仕事をしています。新人の衛生士にとっては、院長や先輩たちが、日々業務をしていることの“元”が、このヘルスケアにあることを、理解できたと思います。

私たちが毎日戦っている、う蝕と歯周

病。このお口の中の二大疾患は、今では「予防できる」ということが、私たちにとっては、当たり前の知識となりました。そのため私たちは、患者さんの歯が、う蝕や歯周病にならないように、「なってほしくない!!」という気持ちで、日々努力しているつもりです。しかし、患者さんにとって、お口の中の二大疾患が予防できる、という意識は、まだまだ浸透していないように感じます。患者さんには、なぜ今の状況になってしまったのか、どう再発を防ぐのか、ということを知ってもらう必要があります。そのためには、う蝕や歯周病の病因論を私たち自身がしっかり理解し、それを様々な角度から患者さんに伝えなければなりません。そして、患者さん自身のお口の中に興味を持っていただくことが何よりも必要なことだと藤木省三先生の講演を聞いて再確認できました。

当院では、リコールのシステムもかな

り確立されています。

歯周検診やPMTCなどを行い、それを記録し、今までの衛生実地記録と比較し、患者さんに説明してきました。それで患者さんにも伝わっていると考えていました。そのため、恥ずかしい話ですが口腔内写真だけは今までほとんど手つかずでした…。

しかし、“点”の歯科医療ではなく、「線」の歯科医療を目指す私たちとしては、過去と現在を視覚に訴える口腔内写真はやはり重要な存在です。患者さんにとってインパクトが強く、口頭で説明するよりも何倍も簡単に理解していただけるものだと改めて痛感しました。

そのため、現在は口腔内写真を撮ることに奮闘しています。最初はカメラに触ることも躊躇していた私たちですが、今は前向きにコツコツと、皆で練習を重ねています。

小さな歩幅ではあると思いますが、少

しずつ前進しているように感じます。

他院でのヘルスケアの取り組み方のお話を聞いていても、どの医院も苦労や努力を重ねて取り組まれています。「皆も、こうやって頑張っているんだ!」と、とても励みになりました。

心が変われば態度が変わる、態度が変われば行動が変わる…。できることは、まずやってみよう! ということで、心からもう一度変えて、“患者さんの健康を共に喜ぶ”を目標に、院長とスタッフと皆で、これからも頑張っていきたいと思えます。



誰もがここがスタートだった! スタッフと聞きに行こう! ワンデーセミナー東京

2012年12月2日(日) 10:00 ~ 16:30

日本歯科大学九段ホール (東京都千代田区富士見 1-9-20)



ワンデーセミナー東京 プログラム

- ・ヘルスケアの目指すところ、理解しておいて欲しいこと 藤木省三 (神戸市)
- ・認証、受けてみます! 林浩司 (真岡市)
- ・えっ、私たちが講師ですか? 木村理香, 佐久間喜美 (おかもと歯科医院)
- ・やってよかった、ヘルスケア診療 雨宮博志, 多田 遥 (秦野市)
- ・誰にでも壁はあります 川嶋 剛 (国立市)
- ・さあ、歩みだそう 杉山精一 (八千代市)



参加費

〈会員〉	〈非会員〉
会員歯科医師	非会員歯科医師
10,000 円	12,000 円
スタッフ	スタッフ
4,000 円	4,000 円

※参加費に昼食代を含みます

※次回ニュースレター (vol.15-4) より申し込みを受付ます

ヘルスケアミーティング 2012 (抄)

1 日目 10/20

13:00 ~ 14:30

診療所づくり奮闘記

担当：田中正大

今回はヘルスケア型診療を实践すべく奮闘している歯科医院のプレゼンテーションです。沼澤秀之さんは、お父様の経営する医療法人の分院長として、既存の歯科医院に勤め始めたところからヘルスケア型に転換していく課程、滝沢江太郎さんは新規開業でゼロからシステムを構築実践していく課程、齋藤 健さんはある程度診療してからシステムを転換していく課程と、三者三様なのですが、かたちは違えども、それぞれ壁にぶつかりながらもあきらめず前進していく姿は、同じ志を持つ歯科医院にとって大いに参考になることでしょう。

15:30 ~ 16:00

エックス線写真の撮影

担当：滝沢江太郎

みなさんこんにちは。突然ですが書籍や講演で他の医院のエックス線写真を見て「うわぁ、きれいなぁ…」、「これってどうやって撮ってるんだろう…?」と思ったことはありませんか? 今年のヘルスケアミーティングではメンテナンスを続けていって患者さんと長いおつきあいをしていくときには欠かすことができない、エックス線写真撮影についてどうすれば規格撮影できるのか? というところをセミナー委員会の活動から報告致します。乞うご期待!

16:00 ~ 16:30

口腔内写真の撮影

担当：渡辺 勝

口腔内写真って、すごい情報量がたくさん詰まっています。でも、その情報量を引き出すためには、少しばかりのコツが必要。患者さんに受け入れられ、医院にとってもメリットがある撮影法。そんな口腔内写真の活用に関して、皆さんと一緒に考えられるようなパートにしていきたいと思います。

17:30 ~ 19:00

交流会 (全員参加)

担当：岡本昌樹

せっかく年に一回全国から会員が集るのに、何の交流もなしではもったいないということで、少し時間をいただいて会員の交流の場を設けました。いろいろな地域の活動の紹介も予定していますので、お茶など飲みながらヘルスケアトークを楽しんでいただければと思います。名刺交換の時間を設けますので、ぜひたくさんの方の名刺をお持ちください。

19:30 ~

懇親会 (希望者)

担当：岡本昌樹

多くの会員の方のご要望により、今年も懇親会を行うことになりました。今回は、話題のbuffetレストランでの開催です。おいしいお料理とお酒に、東京ドームシティの夜景で楽しい時間をお過ごしください。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

会場：東京ドームホテル スーパーダイニング「リラッサ」

<http://www.tokyodome-hotels.co.jp/restaurants/rilassa.php>

参加費：6,000円

アクセス：秋葉原からJRで2駅(駅前)、車で10分

14:30 ~ 15:15 / 16:30 ~ 17:15

ポスター発表 担当：セミナー委員会 (岡本昌樹)

新しくなった
ポスター発表に
ご参加ください!

- 1 テーマ
 - ①「院内勉強会」
ヘルスケア型診療を行うには学び続ける姿勢が必要不可欠です。そこで、今年は「院内研修」というテーマで実践していることを発表し、学び、楽しみ、みんなで役立てていくことにしました。
 - ②「自由テーマ」
症例発表、地域医療、マネージメント、等々本会の活動に添った内容でしたら、何でも結構です。
- 2 参加資格
当会正会員診療所及び個人単位(正会員、準会員)。1医院から複数出展可。
発表者は発表当日必ず出席ください。
- 3 発表方法
発表に際し、多くの方々が1カ所に集中するため、聴衆の方々からよく聞こえない、内容が見えないので改善してほしいとのアドバイスをいただきました。
今年は初めての試みとして、発表の要点をスライドで発表していただきます。
 - ① 既成衝立に画鋏(ピン)または両面テープで貼付
 - ② スライドを作製(5枚以内)して、メイン会場にて口頭発表(発表3分、質疑1分)
 - ③ プログラム用事前抄録(400字程度)
- 4 サイズ
ポスターのサイズは最大W900×H2100mm、最小で模造紙1枚(W728×H1030mm)。
診療所名、発表者名はこのスペースに含まれます。掲示はポスターのみとします、机の用意はありません。
- 5 表彰
昨年までの投票による1位のみ表彰のほか、さまざまな観点から表彰できるように、現在準備中です。
- 6 申し込み
FAXまたはメールにて事務局まで
- 7 申し込み締切 **8月31日(金)** 多数のご参加をお待ちしています。

ヘルスケアミーティング 2012 (抄)

2日目 10/21 「診療補助」って何??? 歯科衛生士法って? ヘルスケア型チーム医療を成功させるために

「診療補助」とは、法律上は、診療のお手伝いのことではありません。歯科衛生士が歯科医療行為を行うことを言います。たとえば、歯周病患者の歯肉縁下のインスツルメンテーションは、歯科医師がその歯科衛生士に相当の技倆・能力があると判断して指示した場合に、初めて合法的に認められる行為なのです。ちょっとこみ入った話になりますが、外部講師に今回の企画を説明した趣意書は以下のとおりです。

歯科衛生士の「歯科医療行為」は、歯科衛生士法（以下「法」）が歯科衛生士の業務として定める「診療補助」（法第2条）に法的根拠をもっています。歯科衛生士の診療補助は、医師の指示による看護師の診療補助と等しく「主治の歯科医師の指示」（法第13条の2）の下に、幅広い相対的歯科医行為の範囲で可能です。どのような能力、熟練をもって、どのようなときに、どのような相対的医行為を指示するか、その判断は主治の歯科医師に委ねられていますが、その条件や範囲について、かならずしも専門家の間にコンセンサスがあるわけではありません。

現在、様々な学会が、歯科衛生士の認定制度を発足させていますが、こうした認定歯科衛生士制度は、当該学会が重きを置く診療補助業務を指示しうる歯科衛生士を認定するものと考えられます。地域住民の予防ケア、家族ぐるみの健康維持を診療の基本に置き、チーム医療によってそのような診療システムを運営している私たちの場合は、カリエスリスクコントロールの多くの部分、歯周病の基本治療の多くの部分、そして歯周治療につづくサポートペリオドンタルセラピーにかかわる多くの部分を一定の能力をもち熟練した歯科衛生士に指示しています。

平成25年春、歯科衛生士試験の受験生全員が3年制以上の歯科衛生士学校の卒業生になります。それに応じて歯科衛生士には、一段と高い能力が要求されるようになります。この時期にあたって、歯科衛生士の「歯科医療行為」について、立場の違いを超えて認識を深め、卒後臨床研修や認定の在り方について理解を深める機会をもちたいと考えました。

歯科衛生士の歯科医行為

石井拓男（東京歯科大学副学長，東京歯科大学歯科衛生士学校校長，東京歯科大学教授社会歯科学）



歯科衛生士は、現在ではその就業人数は歯科医師を超え、歯科界で最大多数の職種となっている。また、就業している歯科衛生士の50%は35歳以上のベテランが占めている。歯科衛生士の数と質が急速に変化した。歯科衛生士の業務についての見直しも、それにつれて大きく進んだと思われる。2004年厚労省が歯科衛生士教育年限を3年以上とし、2005年に日本歯科医師会が「歯科衛生士の業務と要請に関する検討臨時委員会」を設置し、2006年日本歯科医師会会長から日本歯科医学会会長へ「歯科診療の補助行為に関する見解」が依頼された。この間に、歯科界に「絶対的歯科医行為」「相対的歯科医行為」という概念が紹介されて普及することとなった。その中で、日本歯科医学会は「歯科衛生士業務に係わる検討会」を開催し、臨床系の専門学会に意見を求めた。各学会から合計400程の行為が具体的に提示されたことは歴史的なことであった。歯科医行為についてのコンセンサスは、歯科医学医療の進歩と社会状況によって変わるものである。そして、行政や司法そして国民の判断・認識の変化につながるものと思われる。

診療補助と日本歯科衛生士会の認定歯科衛生士について

金澤紀子（日本歯科衛生士会会長）

日本歯周病学会認定歯科衛生士

特定非営利活動法人日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会委員長 渋谷俊昭（朝日大学歯学部教授歯周病学分野）

日本ヘルスケア歯科学会の認定歯科衛生士について

河野正清ほか歯科衛生士育成コース担当歯科衛生士

「診療補助」って何??? 歯科衛生士法って? ヘルスケア型チーム医療を成功させるために

2012年 10月 20日(土) ・ 21日(日)

秋葉原コンベンションホール 東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 2F <http://www.akibahall.jp/index.html>

メインテナンスケアと予防を診療のベースにおいた歯科医療を始めるためには、まず歯科医師一人の能力や技術で歯科医療が成り立つという思い込みを捨てなければならない。そこに始まるのは、歯科衛生士、歯科技工士、受付はもとより外注ラボ、ある場合は周辺の歯科医院・病院、専門性の高い医師や歯科医師、多職種との連携を含むチーム医療である。その第一歩で曖昧にしてはいけないことがある。それは法律上の業務範囲の問題である。

今回のミーティングでは、歯科衛生士の診療補助業務に焦点を当てて、正しい認識をもつと同時に、よりよいチーム医療を可能にする環境整備のため、関連学会と連携を模索する。

プログラム

10月20日

10:30 ~ 12:00	オピニオンメンバー会議
13:00 ~ 14:30	診療所づくり 奮闘記 プレゼンター： 沼澤デンタルクリニック (小金井市・代表 沼澤秀之) たきさわ歯科クリニック (青森市・代表 滝沢江太郎) さいとう歯科 (市川市・代表 齋藤 健) 座長：藤本省三、田中正大
14:30 ~ 15:15	ポスター発表 (1) (今回から5分間プレゼン付き) 座長：川嶋 剛、林 浩司 テーマ 1) 「院内勉強会」 2) 「自由テーマ」
15:30 ~ 16:00	エックス線写真の撮影 滝沢江太郎ほか
16:00 ~ 16:30	口腔内写真の撮影
16:30 ~ 17:15	ポスター発表 (2) 座長：川嶋 剛、林 浩司
17:30 ~ 19:00	診療所交流会 (全員参加・同じ会場)

10月21日

9:35 ~ 9:45	趣旨説明 杉山精一
9:45 ~ 10:05	寸劇で考える・診療補助 齊藤 仁ほか
10:05 ~ 10:50	基調講演 歯科衛生士の歯科医行為 石井拓男 (東京歯科大学副学長、社会歯科学教授)
10:50 ~ 11:10	質疑 司会：齊藤 仁
11:30 ~ 12:00	実態報告1 会員診療所の調査から分かった「診療補助業務」 昼食休憩
13:10 ~ 13:40	実態報告2 私たちの日常の仕事 長い経過の患者さんの診療をめぐる (歯科衛生士)
13:40 ~ 14:00	診療補助と日本歯科衛生士会の認定歯科衛生士について 金澤紀子 (日本歯科衛生士会会長)
14:00 ~ 14:20	日本歯周病学会の認定歯科衛生士について 渋谷俊昭 (日本歯周病学会歯科衛生士関連委員会委員長 朝日大学教授)
14:40 ~ 15:40	日本ヘルスケア歯科学会の認定歯科衛生士について 河野正清ほか歯科衛生士育成コース担当歯科衛生士 ディスカッション 金澤紀子、渋谷俊昭、河野正清、田村 恵 座長：齊藤 仁

お知らせ・ご注意

- ・ 21日の昼食(弁当)を希望される方は、10月12日までにお申し込みください。
- ・ 申込書を送信後1週間を過ぎても計算書と払込用紙が届かない場合は、ご連絡ください。
- ・ 事前にキャンセルされた場合は、手数料を差し引いた参加費を返金します。但し、9月28日以降のキャンセルは、ご返金できませんので、ご了承ください。

参加費

	会 員	非会員
歯科医師	8,000 円	10,000 円
その他	4,000 円	5,000 円
学生・院生・研修医	4,000 円	
懇親会	6,000 円	
21日昼食	1,200 円	

お申し込み・お問い合わせ...

下記申込み欄にご記入後、事務局までFAXまたは郵便にてお送りください。

〒112-0014 東京都文京区関口 1-45-15-104 一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会事務局

FAX: 03-3260-4906 TEL: 03-5227-3716 ホームページからもお申し込みいただけます。 <http://www.healthcare.gr.jp/>



参加申し込み Fax. 03-3260-4906

参加を申し込みます (news15-3)

ヘルスケアミーティング 2012 参加申込み (会員専用)

(必要項目ご記入、該当欄に✓印を記入ください)

フリガナ ご氏名	会員番号:	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師: 8,000 円 <input type="checkbox"/> 会員その他: 4,000 円 <input type="checkbox"/> 学生・研修医: 4,000 円	<input type="checkbox"/> 非会員歯科医師: 10,000 円 <input type="checkbox"/> 非会員その他: 5,000 円 <input type="checkbox"/> 懇親会 6,000 円 <input type="checkbox"/> 昼食 1,200 円
フリガナ ご氏名	会員番号:	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師: 8,000 円 <input type="checkbox"/> 会員その他: 4,000 円 <input type="checkbox"/> 学生・研修医: 4,000 円	<input type="checkbox"/> 非会員歯科医師: 10,000 円 <input type="checkbox"/> 非会員その他: 5,000 円 <input type="checkbox"/> 懇親会 6,000 円 <input type="checkbox"/> 昼食 1,200 円
勤務先・診療所名	参加申し込み人数	合計金額	
		人	円

住所 〒 -

電話番号 -

FAX 番号 -